

# 静 修

◇学校だより  
平成30年 【6月号】  
光市立上島田小学校



学校HPを随時更新して  
います。ぜひご覧ください！

HP <http://kamishimata-e.hikari-net.ed.jp/>

## ～練習をがんばった運動会～

5月26日(土)に平成30年度運動会を行いました。天候も午前中は過ごしやすく、子どもたちの一生懸命な姿が、あちらこちらで輝いていました。来賓や地域の方、保護者と一体となり楽しい1日を過ごしました。今年度の運動会は、行動がきびきびした、とても気持ちのよい運動会となりました。この要因は、子どもたちの日頃の練習にありました。暑い日が続く、疲れがたまっても練習や準備に、全員が一生懸命に取り組み続けた成果だと思えます。また、今回の運動会練習では、気をつけ・礼の姿勢、人の話を聴く姿勢、返事、時間厳守がきちんとできるようになり、子どもたちに大きな成長が見られました。



## ～環境整備 今年もありがとうございました～

今年度も運動会1週間前の5月19日(土)にボランティアによる環境整備を行いました。多くの地域の方、保護者、児童に参加していただき、正門から玄関周り、西側のフェンス沿い、プール周辺がとてもきれいになり、気持ちよく運動会を行うことができました。



## ～「英語であそぼう」参加者が増えています。～

今年度から毎月2回第2・第4水曜日に開催される、「英語であそぼう」では、先日5月23日にありましたが、参観される方が増えました。どなたでも参観でき、参加もできます。時間は午前8:10からの15分間です。場所は、上島田小学校の音楽室です。興味のある方は、【田中輪業 77-0531】にご連絡ください。

今年度の予定

月	日(曜日)	月	日(曜日)
6	13(水)	10	10(水)
	27(水)		24(水)
7	11(水)	11	14(水)
9	12(水)		28(水)
	26(水)	12	12(水)



## ～平成30年度コミュニティ・スクール～

平成30年度 上島田小学校 学校運営協議会委員

【会長】高橋 佳嗣 【副会長】山口 昇 (CSボランティア部長)

【委員】福田 隆登 (CS広報部長) 尾崎 佳正 (CS学習支援部長)

藤山 厚子 (CS心の教育部長) 尾崎 信次 (CS安全・体力づくり部長)

山本 義人 福田 公一 石川 光義 叶屋 良太 (島田中 教頭)

石川 友士 (PTA代表) 柳澤 英純 (地域コーディネーター)

小幡 治生 (校長) ※敬称略 新任

## ～6月の行事予定～

日	曜	行事内容	日	曜	行事内容
1	金	安全指導	15	金	環境学習（4年生）
		まち探検（2年生）	16	土	すこやか参観日
4	月	委員会活動	18	月	教育実習開始（前期）
		校納金引落日			振替休日
5	火	CS推進部全体会	20	火	あいさつ運動
6	水	放課後子ども教室			読み聞かせ
7	木	特別支援学級宿泊学習～8日	23	土	島田中学校区親睦球技大会
11	月	田植え（予定）（5年生）	25	月	児童朝会
		クラブ活動			代表委員会
12	火	プール開き			スキルアップ
13	水	英語であそぼう	27	水	英語であそぼう
		市教研一斉研修			ユニット型研修
14	木	音楽・演劇教室（5・6年生）	29	金	教育実習終了（前期）

## ～「家事手伝い」が自立心を育む②～

ある記事に「家事手伝い」が自立心を育む（失敗や挫折を乗り越えられない若者）という興味深い記事がありましたので、3回にわたって掲載します。今回は2回目になります。

### ②（子どもに役割を）



自立心のある人は、独自の考えをしっかりと持っている、自己肯定感が強く自分に自信を持っている、健康など自己管理ができる、責任感が強く粘り強いなどの特徴を持っている。また、集団生活においても他人に依存することなく、他者に流されることもなく、自分の判断で行動することができる。

自立心は、社会になってから身に付けるものではなく、幼少期の家庭教育をはじめ、義務教育、高等教育をとおして身に付けていくものである。例えば、家庭では、役割を決めて家事手伝いをさせることで、子どもが学ぶものは多い。食器洗いであれば、どのような汚れの食器から洗えば、効率よく上手に早く片付けられるかを考え、取り組むことにより、計画力や状況把握力などを育むことが可能である。そして、決められたお手伝いをこなすことで忍耐力が養われ、自分でやれるようになることで喜びを感じ、自立心が育つ。

また、家事手伝いをとおして、親子が互いに助け合うことを体験させることで、家族のつながりが深まる。家族団らんの楽しさを味あわせることもできるし、仕事が大変であればあるほど、家庭内での自分の存在感や有用感を感じることもなり、責任感、連帯感も身につけていく。さらに、自信がつくことにより、自分のことだけでなく、人のために役立つことに喜びを感じて積極的な行動がとれるようになる。

自立心は、親から離れた集団生活体験でも育むことができる。集団生活の場では、一人ひとりに役割が与えられる。役割が与えられれば、周りに迷惑をかけまいと、与えられた役割を一生懸命果たそうとする。うまくいけば自信がつくし、失敗しても、仲間から助けられる体験をすることで、仲間がいることの良さや、感謝することの大切さなどを学ぶことができる。

自ら何をすべきか考えられ、進んで行動できる自立心のある人は、社会に出て困難にぶつかっても、乗り越えることができる。会社に入り、仕事をする上で自分自身に必要な知識が足りないことが分かれば、独学でも必要な知識を身に付けようとする。こうした人間に育てるためにも、子どものころは、家事手伝いで役割を与えたり、集団生活を体験させたりすることが重要である。